

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：32704

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780198

研究課題名(和文)ルネサンス期フィレンツェ繊維工業とオスマン帝国

研究課題名(英文)The Renaissance Florentine textile industries and the Ottoman Empire

研究代表者

鴨野 洋一郎(Kamono, Yoichiro)

関東学院大学・経済学部・講師

研究者番号：80631192

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、フィレンツェ繊維工業とオスマン帝国との経済的な関係を解明するため、フィレンツェ各古文書館やアメリカ、さらにはわが国に所蔵されるさまざまな経営記録を調査した。その結果、オスマン帝国もふくむ地中海の東西からフィレンツェに輸入される赤色染料の流通や、フィレンツェの会社とオスマン帝国に滞在する駐在員との関係、毛織物工業を展開するメディチ家やヴェントゥーリ家が行ったオスマン貿易について、具体的なデータとともに明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this research I investigated several management documents preserved in the archives at Florence, in the United States and even in Japan to make clear an economic relationship between the Florentine textile industries and the Ottoman Empire. As a result I clarified with concrete data the distribution of red dyes imported from the east and the west of the Mediterranean including the Ottoman Empire, the relationship between firms at Florence and agents in the Empire, and the Ottoman trade conducted by the Medici and the Venturi family involved in the wool industry.

研究分野：地中海商業史・中近世イタリア経済史

キーワード：西洋史 経済史 オスマン帝国 国際情報交換(イタリア) フィレンツェ

1. 研究開始当初の背景

中世イタリアの都市国家フィレンツェは15世紀にルネサンスを開花させ、多くの芸術品を生み出した。この運動を支えた経済活動としては、国際商業・金融業および繊維工業が重要である。そのうち後者の繊維工業では、フィレンツェの毛織物会社や絹織物会社がかぞってオスマン帝国まで製品を運び、現地に滞在する駐在員を介してこれを販売していた。

筆者はこれまでこのフィレンツェが行ったオスマン貿易に着目し、グワンティ家およびセリストーリア家という2つの家族が行ったオスマン貿易の実態を解明した。ただオスマン貿易を行った会社や商人は他にも存在し、その活動の記録も一部残っている。またオスマン貿易の意義について考察するには、フィレンツェが展開した繊維工業さらには経済活動全体の中にこの貿易を位置付ける必要がある。

そこで本研究では、前述の2つの家族以外が行ったオスマン貿易についても調査を行い、またオスマン貿易以外の経済活動にも着目することによって、ルネサンス期フィレンツェ経済における同貿易の意義を浮き彫りにしようと試みた。

2. 研究の目的

1でも述べたように、本研究はグワンティ家およびセリストーリア家以外でオスマン貿易を行った会社や商人を取り上げ、それらの経営記録を調査することでオスマン貿易の実態にさらに迫ることを目的とした。さらにはルネサンス期のフィレンツェが展開したさまざまな経済活動にも着目することで、オスマン貿易をフィレンツェの経済活動全体の中に位置付けることも目的とした。

以上を目的とする本研究が将来的に目指すものは、ルネサンス期フィレンツェが行った異文化交流の1つのあり方をはっきりさせることである。オスマン貿易は、キリスト教文化圏にありローマ教皇庁と密接につながっていたフィレンツェが、イスラーム文化圏の盟主的な存在となりつつあったオスマン帝国との間で行った貿易であった。この相対する2つの文化圏にある2つの国が、貿易を行う上でいかなる問題に直面し、またいかなる方法でその問題を克服し、貿易から利益を上げていたのか。これを明らかにすることは、今日のグローバル化された世界経済が直面する諸問題を解決するための1つの糸口を提供するものと思われる。

3. 研究の方法

1および2で述べた目的に達するため、本研究ではフィレンツェ内外に所蔵される史料の地道な調査を行った。具体的には、フィレンツェのインノチェンティ捨児養育院古文書館にあるカンビーニ家文書、アメリカのハーヴァード大学ペイカー図書館にあるメ

ディチ家文書、一橋大学社会科学古典資料センターにある会計帳簿、そしてフィレンツェ国立古文書館にあるヴェントゥーリ家文書およびカタスト記録である。

当初本研究は、カンビーニ家文書の調査を終えたのちフィレンツェ国立古文書館にある2冊の会計帳簿を調査する予定であった。しかし研究の途中で、わが国の一橋大学がもつ会計帳簿が本研究にとってきわめて貴重な史料であると確認できた。そのため予定を変更し、この帳簿の調査を最優先とした。そしてこの帳簿と関係の深いメディチ家の経営記録の調査を進めるという方法を選択した。さらに昨年フィレンツェで史料調査を行った際、ヴェントゥーリ家のまとまった経営記録を見つけることができた。帰国後はメディチ家のオスマン貿易に関する論考を執筆しつつ、ヴェントゥーリ家文書の解読も進めていった。

上で挙げた史料の多くは、経営記録と呼ばれるものである。経営記録は会社の経営全体を複式で記録した総勘定元帳や、取引の詳細を記した備忘録、本社と駐在員とのやり取りを記した商業書簡などで構成される。いずれも当時の経済活動の詳細を知る上でもっとも重要な史料とされている。本研究でもこれらの経営記録を丁寧に解読し、その内容を整理した。

4. 研究成果

以下、研究成果について、研究テーマごとに番号をふりながら説明する。研究テーマは(1)カンビーニ家文書の調査、(2)メディチ家文書の調査、(3)一橋大学にある会計帳簿の調査、(4)ヴェントゥーリ家文書の調査である。

(1)カンビーニ家文書の調査

本研究開始以前から行ってきた調査である。カンビーニ家文書はカンビーニ家が経営した会社の経営記録であり、そのうち一連の備忘録は30年以上にもわたる会社の取引の詳細を伝えている。本研究では備忘録を網羅的に調査し、会社が取り扱った重要な商品の1つであった赤色染料に着目した。赤色染料は地中海各地からフィレンツェ輸入されたが、オスマン帝国が勢力下におくことになるバルカン半島も輸入先の1つとなっていたからである。

調査の詳細については「研究活動スタート支援」の研究成果報告書にも記載した。ただその後、本研究期間中にF・グイーディ＝ブルスコリがポルトガルのリスボンに滞在したフィレンツェ商人について詳細な研究を著した(F. Guidi Bruscoli, *Bartolomeo Marchionni «homem de grossa fazenda» (ca. 1450-1530). Un mercante fiorentino a Lisbona e l'impero portoghese* (Firenze: Olschki, 2014)。リスボンは赤色染料の主要な輸入先でもあった。そこで本研究ではこの

研究も参照し、フィレンツェとポルトガルとの貿易に関する知見を得た上で、改めて赤色染料の流通を整理した。そして流通の変化について時代を追ってまとめ、その変遷にオスマン帝国の東地中海進出が与えた影響を考察した。カンピーニ商会ははじめ東地中海からも赤色染料を輸入したが、オスマン勢力のバルカン進出により輸入先をリスボンに絞っていった。商会は国際情勢に柔軟に対応することでフィレンツェへの赤色染料輸入を継続させたのである。

研究成果は、『経済系』（関東学院大学）第267集において公表した。

(2)メディチ家文書の調査

メディチ家文書は、ハーヴァード大学ベイカー図書館が所蔵する大量の経営記録である。すでに報告者は、フィレンツェ大学グイーディ＝ブルスコリ准教授がもつマイクロフィルムを閲覧し、必要箇所を複写していた。本研究ではそのうち、「ジョヴァンニ・マリノギ書簡複写帳」の調査を重点的に行った。この複写帳は、オスマン帝国のペラ（今日のイスタンブル・ガラタ地区）に滞在したフィレンツェ商人マリノギが発送した書簡の内容を写したものである。この内容から、フィレンツェの会社から商品を委託されたフィレンツェ人駐在員が現地でのどのように考え、行動していたのかをある程度知ることができる。

本研究ではこの書簡複写帳の内容を、駐在員マリノギと、彼に製品を委託していたネーリ・ヴェントゥーリとの関係という視点から分析した。ネーリはさまざまな方法で毛織物を購入しマリノギに送る一方で、毛織物製造とも深く関わっていた。本研究ではマリノギがネーリに宛てた書簡の内容から、マリノギにとってネーリがさまざまな商品を調達する貿易商としても、また毛織物製造に精通する織元としても重要なパートナーであったことを明らかにした。

さらに、ネーリの息子リオナルドがペラにいたマリノギのもとへ向かい、リオナルドとマリノギが現地で協力するという事実に着目した。マリノギの書簡から、この事実の背後に、マリノギがリオナルドを通じて長期的にネーリとの関係を構築したいという意図があったと突き止めた。ネーリは毛織物工業界に豊富な人脈をもっていた。マリノギはネーリとの関係を強化することで、ネーリがもつ人脈ともつながり、さらに毛織物の取引を増やそうと考えていたのである。

ここで述べたマリノギとネーリ・ヴェントゥーリとの関係のうち、前者に関する研究成果は未刊行の共著において公表する予定である。後者に関する研究成果は『経済経営研究所年報』（関東学院大学）第38集において公表した。

(3)一橋大学にある会計帳簿の調査

一橋大学社会科学古典資料センターが所蔵する「メディチ家帳簿」と呼ばれる史料を調査し、帳簿の内容を全て解読した。その結果、この帳簿がフランチェスコ・ディ・ジュリアーノ・デ・メディチという人物によって書かれた帳簿であると確認した。フランチェスコは、父ジュリアーノが経営する毛織物会社の駐在員としてオスマン帝国に滞在し、そこでの取引の詳細をこの帳簿に記録していた。つまり、この帳簿は報告者の研究に直接関わってくる史料であった。フィレンツェ商人がトルコで記録した駐在員帳簿の伝来数は少ないため、一橋大学の帳簿はきわめて貴重な史料となっている。

そこで本研究では予定を一部変更し、フランチェスコの駐在員帳簿の内容を整理し公表することを優先的な課題とした。まず、フランチェスコが「経費」として計上した細かい項目から、彼がフィレンツェを出てペラに至り、その後ブルサに移動してイタリアに戻るまでの足跡を追った。それから帳簿に登場するさまざまな人名勘定から、フランチェスコが毛織物をユダヤ人やトルコ人に販売し、その売上でペルシア生糸や蜜蝋を購入していたことを明らかにした。

上述の研究成果は、帳簿を所蔵するセンターの『年報』第37号において公表した。

さて駐在員帳簿を記したフランチェスコは「デ・メディチ」の姓を名乗ったが、巨大な「メディチ銀行」を経営したメディチ家の「本家」ではなく、「傍系」に属していた。報告者が「ジョヴェンコの家系」と呼ぶこの家系は、15・16世紀を通じて毛織物製造および販売に従事していた。そこで本研究ではド・ルーヴァヤエドラー・ド・ルーヴァの研究に依拠しつつ、「ジョヴェンコの家系」の毛織物ビジネスをまとめた。その際、同家がオスマン貿易を行っていた事実に着目し、メディチ家とオスマン帝国との経済的な関係を明らかにした。

この研究成果は、『経済系』（関東学院大学）第271集において公表した。

(4)ヴェントゥーリ家文書の調査

昨年9月に行ったフィレンツェでの史料調査において、報告者はヴェントゥーリ家文書の存在を確認した。(2)で述べたように、ヴェントゥーリ家は駐在員を介してオスマン帝国で毛織物を販売していた。ヴェントゥーリ家文書は16世紀初頭の同家のビジネスに関する経営記録をいくつも含んでいる。そのため、ここから同家が展開したオスマン貿易の詳細を知ることができる。調査では、必要と判断した経営記録を全て撮影し、帰国後もヴェントゥーリ家文書を研究できる環境を整えた。

報告者は(3)で述べたメディチ家のオスマン貿易に関する研究を一通り終えたのち、ヴェントゥーリ家のオスマン貿易について調査することにしている。すでに一部の解読を

進めているが、ある程度まとまった情報が得られた段階で、研究成果を公表したい。

なお2で述べた目的のうち、オスマン貿易をフィレンツェの繊維工業および経済活動全体に位置付ける試みは十分に達成されなかった。ただ報告者は本研究期間中に、メディチ家の「ジョヴェンコの家系」が展開した毛織物ビジネスを「本家」が行った国際商業・金融業と比較した。この研究成果は、近いうちに公表したいと考えている。今後はその成果に基づき、さらに本研究で収集した文献を利用することで、より巨視的にルネサンス期フィレンツェ経済およびそこでのオスマン貿易の意義について論じていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

鴨野 洋一郎、「もう1つのメディチ家」と毛織物工業、そしてオスマン帝国、経済系、査読有、第 271 集、2017、pp. 13-24、

鴨野 洋一郎、フランチェスコ・ディ・ジュリアーノ・デ・メディチの駐在員帳簿 フィレンツェ・オスマン貿易に関する新史料、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読有、第 37 巻、2017、pp. 2-12、

鴨野 洋一郎、15 世紀フィレンツェの赤色染料輸入 カンビーニ商会の備忘録から、経済系、査読有、第 267 集、2016、pp. 1-15、
http://library.kanto-gakuin.ac.jp/e-Lib/catdb1.do?pkey=NI30001148&initFlg=_RESULT_SET_NOTBIB

鴨野 洋一郎、フィレンツェ・オスマン貿易における駐在員 オスマン貿易商ジョヴァンニ・マリングの書簡から、関東学院大学経済経営研究所年報、査読無、第 38 集、2016、pp. 51-63、
http://library.kanto-gakuin.ac.jp/e-Lib/catdb1.do?pkey=NI30001138&initFlg=_RESULT_SET_NOTBIB

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鴨野 洋一郎 (KAMONO, Yoichiro)
関東学院大学・経済学部・講師
研究者番号：80631192

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()